



150



創立150周年記念誌

仁・愛・心 時代とともに 地域とともに

Social Welfare Foundation YOFUEN

社会福祉法人

陽風園



Since 1873

150

創立150周年記念誌

仁・愛・心 時代とともに 地域とともに
Social Welfare Foundation YOFUEN



私たちの信条

一、私たちは、先人から受け継いだ仁愛の精神に則り、その伝承者として奉仕の誠を捧げます。

一、私たちは、福祉の崇高なる使者として、世のため、人のため、園のため、顕愛の念に努めます。

一、私たちは、和を貴び、信を奉じ、協調融和と友情の輪の中で奉仕の任を果します。

一、私たちは、対話こそ奉仕の原点であることを肝銘し、対話を以て第一義とします。

一、私たちは、「陽風一家」「公序良俗」の美風のもと、心を一にし、奉仕の業にいそしみます。

陽風讃歌

作詞 安田 隆明
作曲 中村 外治

一、朝は小鳥と共に起き
清く明るく朗らかに
今日も元気を胸に秘め

五つの信条合言葉
歴史に輝く 陽風園

二、山と川と街並みに
緑と花に風薫る

今日も楽しく笑顔の集い
五つの信条合言葉
奉仕の館 陽風園

三、住まいと共に この縁^{えにし}
心やすらぎ すこやかに
今日も出逢いを大切に
五つの信条合言葉
使命に燃える 陽風園



ご挨拶

仁愛の心と絆で歩み続けて150年

理事長 丸口 邦雄

陽風園は明治6年に園祖小野太三郎翁が創立して以来、社会福祉事業一筋に歩み続け、今年で150周年を迎えます。

この間、多くの方々から温かいご支援を賜わり、職員一同、深く感謝を申し上げます。

陽風園は現在、救護施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、こども園等の施設の運営や、居宅生活支援事業の実施などを通じ、地域福祉の中核拠点として、社会のセーフティネットの一翼を担っております。

また、快適な施設環境を整えるため、平成23年度から本園の改築事業に取り組んできており、第一期事業が平成29年度に完了したのを受けて、創立150周年を機に第二期事業となる、「あけぼの作業所」と「三陽ホーム」の改築に着手することとし、準備を進めております。

加えて、記念事業の一環として建設を進めてきた、みずきこども園の分園「おひさまとかぜ」が、昨年末に完成しましたので、今年度から、定員を拡大して子ども達の受け入れを開始いたしました。

さて、世界は今、コロナウイルスのパンデミックや専制国家の力による一方的な現状変更の試み、地球環境の悪化などにより、混迷の度を増しております。「安全・安心」や「人類の絆とつながり」が今ほど求められる時代はなく、私たちは今こそ「利他の精神」を発揮し、支えあってこの難局を乗り越えなければなりません。

同時に、「安全・安心こそ最大の福祉」とも云

われるように、人間が幸せに生きていくためには、心と体に不安がないことはもちろん、絆や思いやりの心で結ばれた温かい人の縁に恵まれていることが欠かせません。

幸い、陽風園を支える職員には、園祖の遺志である「仁愛の精神」が脈々と受け継がれておりますので、そうした美風を生かし、これからも人々の心に寄り添った、温もりのある社会福祉施設をめざしてまいりたいと存じます。

また、歴史や伝統は常に時代や社会の変化に即応した新しい営みを加えなければ、持続させることはできません。創立150周年は陽風園にとってエポックを画する出来事ではありますが、それはゴールではなく一つの通過点であり、新たな出発点でもあります。そうした思いを強く持って、DX及びSDGsへの取組みの強化、質の高い福祉サービスの持続的な提供、高い志を持つ福祉人材の育成等に努めるとともに、職員が持つ高度な介護技術や創造力を発揮しながら、未来型介護の創造と実践に絶え間ない挑戦を続けてまいりたいと存じます。何とぞ、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この度は、創立150周年を機に、当園の歴史を振り返り、未来に向けてさらなる飛躍を期すため、この記念誌を編纂いたしました。ご一読いただければ幸甚に存じます。

これまで陽風園の発展にご尽力をくださったすべての皆様方に重ねて感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

祝辞



創立150周年を祝して

石川県知事 馳 浩

社会福祉法人陽風園が、創立150年の節目を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

陽風園の歴史は、明治6年に故小野太三郎氏が私費を投じて民家を購入し、貧しい方々に開放して、その救済にあたったことがはじまりと聞いております。

以来、150年の長きにわたり、北陸三県で最大規模を誇る特別養護老人ホームをはじめ、障害者支援施設や認定こども園など、時代の要請に応えながら、幅広い社会福祉事業に取り組み、本県における社会福祉の先駆的役割を担ってこられました。

現在では、子どもからお年寄りまで1千名を超える方々にサービスを提供されるなど、地域になくてはならない存在となっております。昨年末には、歳末ほっとふれあい事業として、私も陽風園を慰問し、お元気にお過ごしになっている皆さんと楽しく交流させていただきました。

理事長をはじめ関係の皆様方のご尽力に深く敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

さて、いわゆる団塊の世代の方々が後期高齢者となる2025年には、多くの方はお元氣である一方で、介護などの支援を必要とする方の大幅な増加が見込まれています。

また近年、少子高齢化の進展に伴い、ひとり暮らしの高齢者や、いわゆる老老介護の増加など、介護サービスに対するニーズは多様化し、介護サービスの果たすべき役割は益々重要になってきます。

社会的に弱い立場の方々に寄り添い、誰一人取り残さない社会づくりが求められている今、長年にわたり幅広いサービスを提供してこられた実績と、その間に積み重ねてこられた社会福祉に関する高度な知識・技術を有しておられる陽風園には、今後とも、社会福祉のリーダーとして重要な役割を担っていただくことを大いに期待しているところであります。

県といたしましても、引き続き、社会福祉の充実に取り組んでいくこととしておりますが、そのためには、行政だけではなく、地域の福祉現場の第一線でご活躍されている陽風園をはじめとする社会福祉関係団体の皆様と連携しながら、力を合わせて進めていくことが必要であり、関係の皆様のお力添えをお願いする次第です。

最後に、社会福祉法人陽風園の今後益々のご発展と、関係の皆様方のご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



陽風園創立150周年に寄せて

金沢市長 村山 卓

社会福祉法人「陽風園」が創立150周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

明治6年(1873年)、小野太三郎氏が、私費を投じて購入した住宅を貧しい人々に開放し、その救済にあたったことに始まる貴法人の歴史は、国内の民間社会福祉施設としては最も長いと伺っております。歴代理事長様、施設長様をはじめ職員の皆様が連綿と受け継いでこられた仁愛の精神のもと、社会情勢や生活環境の大きな変化の中にあっても、時代の要請にしっかりと応え、救護施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、保育所等、本市の社会福祉事業全般において幅広くご貢献いただいていることに深く感謝と敬意を表する次第であります。

わが国では、本格的な少子高齢化や核家族化の進行に伴い、高齢者のみの世帯をはじめ、孤立・孤独の状態にある方が増えている一方、地域コミュニティが脆弱化するとともに、数年来の新型コロナウイルス感染拡大により地域福祉活動が停滞を余儀なくされています。安心して暮らすことができる地域づくりをいかに進めていくか、改めて問われています。

また、8050問題や介護と育児のダブルケア、ヤングケアラーの存在など、各世帯が抱える福祉課題も複雑化・複合化しています。本市といたしましても、高齢者、障害のある人、子どもやひとり親家庭など属性を問わない相談支援を行う重層的支援体制の整備のほか、地域包括ケアシステムのさらなる推進に向け、なし得る限りの努力を払ってまいります。引き続き、貴法人の変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、現在進められている第二期陽風園本園改築整備事業及びこの度発刊された『陽風園創立150周年記念誌』が、新たな歴史の一步となり、社会福祉法人「陽風園」が、今後ますます発展されますようお願い申し上げます。

目次

2	私たちの信条、陽風讃歌
3	ご挨拶 理事長 丸口 邦雄
4	祝 辞 石川県知事 馳 浩 金沢市長 村山 卓
7	園祖小野太三郎翁の物語
14	陽風園概要
15	組織図
16	施設紹介
31	歴代理事長
32	年表 —150年のあゆみ
52	施設整備計画

※ 2019 年以降の新型コロナウイルス感染症流行をふまえ、
感染防止対策を万全に行った上で記念誌制作および撮影を行っております。

園祖 小野太三郎翁の 物語

社会福祉法人陽風園は、明治6（1873）年「小野救養所」
として活動を始めた日本で最初の民営福祉施設です。
この施設がどのように生まれたのでしょうか。
陽風園の園祖、小野太三郎翁の人生を辿ります。



小野太三郎は、天保11（1840）年1月15日（旧暦）に金沢の中堀川町（現・金沢駅付近）に生まれました。小さい頃は木登りなど何でも得意で、元気に遊びまわるいたずらっ子でしたが、みんなからはとても慕われていました。



父親は加賀藩の下級武士で、暮らしが貧しく寺子屋へは行けませんでした。母の教えもあり読み書きができました。11歳の頃、「院本忠臣蔵」に書かれたことわざを読み、感銘を受けます。

か こう
嘉肴ありといえども

あじわい
食せざればその味を知らず

(意味) 聖人の道も学ばなければその良さがわからない。まずは実践することの大切さを教えたもの

このことわざが太三郎の信念となりました。

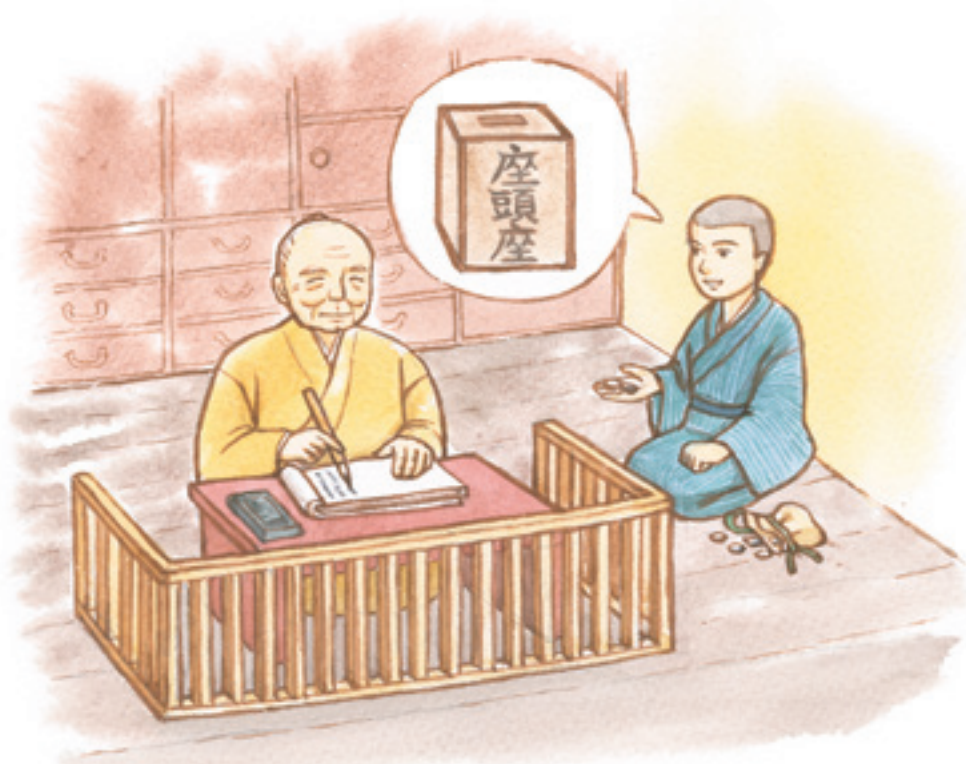


ある日、近江町市場で大きなウミガメを「しあわせの使い」に見立てた催し物を見かけます。縁起を担ぐ人々がお金を投げていました。そのかたわらには物乞いをする老人が座っていましたが、たくさんの見物人は目もくれません。なかには老人に殴りかかろうとする者までいました。

太三郎は大衆の軽薄さと不人情に憤りを覚えましたが、その場を通り過ぎることしかできませんでした。これをきっかけに、「心から人を大事にする人間になろう。貧しい人を助けることができる人間になろう」と誓います。



父親が病気で亡くなると、13歳で小野家を継ぎ七人扶持（※1日に米3升5合一約5.2kg）で加賀藩に召し抱えられます。しかし、16歳の頃、数年にわたる儉約の無理がたたき、白内障を患い失明してしまいます。どんな治療も効果がない中、野町神明宮で毎日祈願した結果、なんと100日目には奇跡的に回復したのです。



目の不自由な人の苦しさを知った太三郎は、視覚障害者を助けることを目的として経済的保護を行う「座頭座」という仕組みがあることを知り、これまで貯めていたお金を商人に預け、その利子のすべてを座頭座へ寄付します。



24歳になった元治元（1864）年、寒い夏と長雨が続いたことで米が収穫できず、加賀藩は大飢饉に襲われます。人々の暮らしは大変で、多くの人が飢えや病に苦しみました。体の不自由な人や貧しい人たちが道をさまよい、町にあふれ出す光景を目にした太三郎は、進んで自分の家を開放し、食事をともにすることで救済します。



25歳の時に島崎センと結婚します。センは苦しい暮らしの中でも笑顔を忘れない明るい人でした。太三郎とともに貧しい人々のために尽くし、いつも苦しい家計を助けました。



廃藩置県により、明治4(1871)年に「座頭座」が廃止されると、働く場所のない視覚障害者が路頭に迷い、体の不自由な人たちが町にあふれ出します。明治6(1873)年、太三郎は蓄えていたお金で木ノ新保(現・本町)に家屋を1棟購入し、24人の視覚障害者を受け入れ食事や着物を与えます。ここは、後に「小野救養所」と呼ばれます。また、その後も彦三町で家屋6棟を購入し、生活困窮者240人、居宅救護者150人を救済します。

明治18（1885）年、明治天皇から慈善家の受章第1号として「藍綬褒章」を受章します。46歳の時でした。藍綬褒章は教育、社会福祉、厚生事業などの公共の利益に尽くした人に授与される褒章です。



太三郎曰く

「私は人^{それ}ち^{ぜん}う^{あく}人は其^と善^い悪^ずを問はず何れも可愛くてなりません」

この言葉から、人に対して分け隔てなく接し、比類なき優しさを持っていたことがわかります。

太三郎は受章後も奢らず、妻のセンとともに慈善事業に全身全霊を傾け、困窮者の救済を続けました。



多くの人たちの協力で、明治38（1905）年に新しい救養所「小野慈善院」が卯辰山の常盤町に建てられました。敷地3,100坪、建物面積500坪の施設です。翌年に財団法人の認可を受け、太三郎は「財団法人小野慈善院」の初代院長に就任します。

院長になってからも、大勢の貧しい人々のための食事に苦勞します。人々は身を粉にして働く太三郎を、心から尊敬していました。

明治45（1912）年、太三郎は
73歳で亡くなりました。

嘉肴ありといえども 食せざればその味を知らず

このことわざを手本に、慈善活動のために信念を貫き、実行した人でした。

太三郎の葬式では、会葬者は数百人におよび、葬列が橋場町から天神橋をつなぐ
約4kmの長い列となるなど、多くの人に惜しまれました。



「小野慈善院」は昭和9（1934）年に現在の三口新町に移り、のちに「小野陽風園」と改称され、昭和44（1969）年に「社会福祉法人陽風園」となりました。

園祖小野太三郎の「仁愛の精神」は、今も私たち陽風園の職員に脈々と受け継がれ、心のこもった福祉サービスの提供と利用される方々や職員の笑顔につながっています。

陽風園概要

名称	社会福祉法人 陽風園
所在地	金沢市三口新町1丁目8番1号 TEL(076)263-7101(代表) FAX(076)260-0635
創業	明治6年
創業者	小野 太三郎
財団法人設立	明治39年10月29日
社会福祉法人へ組織変更	昭和27年5月9日

施設名称	電話番号	定員	開設
------	------	----	----

■陽風園(本園) 〒920-0944 金沢市三口新町1丁目8番1号 TEL(076)263-7101(代表)

養護老人ホーム	向陽苑崎浦	TEL(076)263-7691(直通)	120名	昭和38年8月1日
特別養護老人ホーム	万陽苑明悠館(従来型)	TEL(076)263-7692(直通)	130名	昭和40年1月1日
	万陽苑清風館(ユニット型)	-	60名	平成27年4月1日
短期入所生活介護事業	万陽苑短期入所サービス	-	20名	昭和40年1月1日
救護施設	三陽ホーム	TEL(076)263-7693(直通)	90名	昭和29年11月1日
就労継続支援B型事業	あけぼの作業所	TEL(076)263-7694(直通)	40名	平成8年4月1日
診療所	陽風園診療所	TEL(076)263-7104(直通)	-	昭和24年4月8日

■第二万陽苑 〒921-8046 金沢市大桑町中ノ大平18番地25

特別養護老人ホーム	第二万陽苑	TEL(076)243-0101	150名	昭和60年7月1日
短期入所生活介護事業	第二万陽苑短期入所サービス	-	10名	昭和60年7月1日

■第三万陽苑 〒920-1346 金沢市三小牛町24の3番地1

特別養護老人ホーム	第三万陽苑	TEL(076)280-6781	150名	平成5年7月1日
短期入所生活介護事業	第三万陽苑短期入所サービス	-	20名	平成5年7月1日

■地域福祉プラザ 〒920-0944 金沢市三口新町1丁目8番1号 TEL(076)262-6858(代表)

	陽風園地域福祉総合相談室	TEL(076)261-4165	-	平成25年4月1日
	陽風園訪問介護センター	TEL(076)263-7111(直通) (090-7083-6943)	-	平成4年1月1日
	陽風園デイサービスセンター	TEL(076)263-7698(直通)	32名	平成8年4月1日
	陽風園生活支援センター	TEL(076)262-6858(直通)	-	平成11年9月27日
	金沢市地域包括支援センター みつくちしんまち	TEL(076)263-7163(直通)	-	平成18年4月1日
	サービス付き高齢者向け住宅ドゥ・リアン 〒920-0953 金沢市涌波3丁目3番3号	TEL(076)263-7110(直通)	15室	平成26年6月1日
	陽風園木越デイサービスセンター 〒920-0203 金沢市木越町チ60番地1	TEL(076)258-1418	30名	平成17年4月1日

■ハビリポート若葉・若竹 〒920-1341 金沢市別所町クの10番 TEL(076)247-6787(代表)

障害者支援施設	ハビリポート若葉・若竹	TEL(076)247-6787	若葉 164名	昭和39年4月1日
			若竹 36名	平成23年12月1日
特定相談支援事業	障害者相談支援センターわかば	-	-	平成25年10月1日
共同生活援助事業 (グループホーム)	もみじ 〒920-0944 金沢市三口新町1丁目21番18号	TEL(076)223-8418(直通)	7名	平成6年4月1日
	あおば 〒920-0953 金沢市涌波3丁目2番5号	TEL(076)232-5243(直通)	7名	平成8年4月1日
	さくら 〒920-0944 金沢市三口新町1丁目3番25号	TEL(076)262-6553(直通)	7名	平成11年10月1日

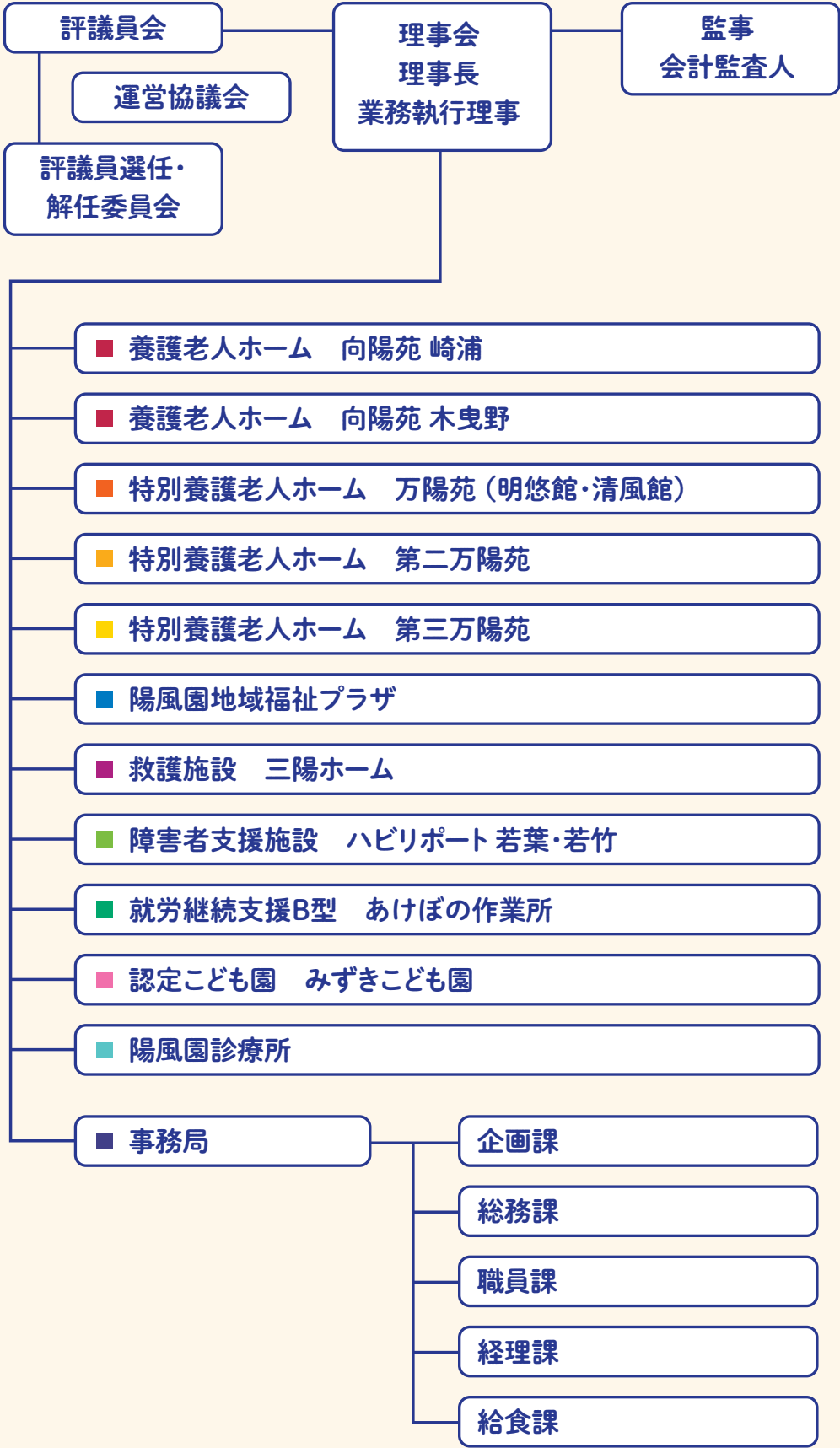
■向陽苑木曳野 〒920-0339 金沢市木曳野4丁目114番地

養護老人ホーム	向陽苑木曳野	TEL(076)268-6541	120名	平成24年4月1日
---------	--------	------------------	------	-----------

■みずきこども園 〒920-0201 金沢市みずき4丁目1番

認定こども園	みずきこども園	TEL(076)258-2120	本園 176名	平成17年4月1日
			分園 10名 (0歳児)	令和5年4月1日

組織図



養護老人ホーム 向陽苑崎浦

がんばろう崎浦！生きがいがある生活を

健康・長寿をテーマに明るく意欲的な日々を送ることができるよう、
生活の質の向上をめざします。

取り組み

- ▶ 四季に応じた多彩な行事
- ▶ 利用者リスク（転倒、誤嚥）
ゼロに向けての対応強化
- ▶ クラブ活動や集い、
買い物等外出支援
- ▶ 地域交流・社会活動

詳しくは



Pick Up

● 秋のドライブ

四季折々のイベントを行っています。その一つであるドライブにも参加を促し、リフレッシュや利用者間のコミュニケーションを充実させ、健康で楽しい生活ができるよう支援します。



● 買い物支援

生活力の維持や向上を図るため、買い物に行き料理を作るなど明るくいいきとした生活を送っていただくよう、一人ひとりの個性を大事にししながら、自立に向けた支援をしています。



養護老人ホーム 向陽苑木曳野

いきいき ながいき その人らしさを求めて

個人の自主性を尊重し、快適で明るく安心できる暮らしを送っていただけるよう努めています。



取り組み

- ▶ 自立した日常生活の継続支援
- ▶ 腸活・身体活動を支える
- ▶ 積極的な地域との交流（屋上開放、地域クリーン活動）

詳しくは



Pick Up

● 開設10周年記念

令和4年度に開設10周年を迎え、利用者の皆さん、ご家族、職員とともに記念行事を盛大に行いました。また、経年劣化した設備・器具の入替えを行い、利用者の皆さんの快適な生活環境の維持に努めました。今後も利用者の皆さん及び地域の方々に愛される施設づくりをめざします。



● 腸活・身体活動を支える

腸活や肺活の大切さを伝え、食べる力や出す力につながるよう日々の献立や体操を取り入れています。また全員参加型の行事を実施し、生活のメリハリや活動力向上につながるよう取り組んでいます。



特別養護老人ホーム 万陽苑明悠館 (従来型)

笑顔の花を咲かせましょう

利用者の方々が日々明るく、笑顔の絶えない暮らしができるよう支援を行っています。
また、健康保持及び増進のため、生活リハビリなどを実施し生活の質の向上と維持に努めています。

取り組み

- ▶ 個別リハビリ
- ▶ 施設内での催物や、季節に応じた多彩な行事
- ▶ ワクワクハッピーデイ
- ▶ 日光浴

詳しくは



Pick Up

● リハビリ

機能訓練室で、リハビリが必要な利用者の方を対象に実施しています。リハビリ以外でも日常生活の中で体を動かす機会を設け、利用者の皆さんの生活機能の維持に努めています。



● 外気浴

施設内で過ごすことが多い生活の中で、行事などを実施し利用者の皆さんに楽しんでいただくとともに、晴れた日には苑の周りを散歩して外気浴を行い心のリフレッシュに努めています。



特別養護老人ホーム 万陽苑清風館 (ユニット型)

一人ひとりを尊重し、その人らしく生活できる場所

ご自宅で送られていた生活を継続できるよう、
一人ひとりに合わせた支援を提供しています。



取り組み

- ▶ 散歩
- ▶ 日光浴
- ▶ 季節を感じられる行事
- ▶ 買い物（外出支援）
- ▶ 作って食べよう会

詳しくは



Pick Up

● 食事の盛付け

リビングで、利用者の皆さんと一緒に食事の盛付けを行っています。食器は陶器の物を使用し、家庭での食事を感じていただけるよう工夫をしています。



● 作って食べよう会

月に2回、洋菓子から和菓子までさまざまなジャンルのお菓子作りをしています。生地を混ぜたり、量を計ったり、時には包丁を使ったり、皆で協力しながら美味しいお菓子を作っています。



特別養護老人ホーム 第二万陽苑

やさしさと思いやり、安全・安心な生活が私たちの思いです

利用者の方やご家族の意向に沿った計画書を作成し、心身ともに健康で、その方らしい生活を送ることができるよう支援します。

取り組み

- ▶ 四季に応じた食事や行事
- ▶ 集い活動の開催、支援
- ▶ 積極的な実習生の受入れ
- ▶ 身体機能の維持、向上のためのリハビリの実施
- ▶ 月一回の職員内部研修

詳しくは



Pick Up

● 利用者の方と職員の会話

利用者の方が話しやすい環境づくりに努めています。困りごとや不安に思うことがあれば一緒に話を聞き寄り添います。病気や加齢によって介護が必要になった方でも、ご本人の意思や希望を尊重し、自立した生活ができるようお手伝いをしています。



● 集い（生け花、書道、料理、手芸など）

暮らしの中で、利用者の方々の特技や好きなことを確認させていただき、楽しみを見つけるお手伝いをしています。余暇活動による生きがいづくりや他者との交流を通して、メリハリのある日常を送っていただくなど、生活の質の向上を図っています。



特別養護老人ホーム 第三万陽苑

自然の恵みを受け、健やかで心豊かな暮らしの支援

内川の「たけのこ」のようにのびのびとした環境の中で、心豊かに安心した日々を過ごしていただけるよう、一人ひとりに合った生活環境の提供に努めています。



取り組み

- ▶ さんさんリハ
(機能訓練指導員が行う
集団リハビリテーション)
- ▶ 集い(園芸、生け花、
音楽、習字など)
- ▶ 四季に応じた多彩な行事
- ▶ 地域交流
- ▶ 安全・安心な
介護

詳しくは



Pick Up

● 安全・安心な介護

安全に移乗介助が行えるようロボット介護機器「SASUKE」を導入しました。シート全面で身体を支えて体圧を分散させ、車いすに深く着座することで姿勢調整の負担を軽減します。また、この他にも見守りシステムなどを活用することで、利用者の方々が安全・安心に過ごせるよう努めています。



● 小規模集団活動(集い、リハビリなど)

昔行っていた馴染みの活動や好きなことに集中して取り組むことにより、認知症の進行を防ぐとともに、生きがいのある生活につながるよう努めています。また、通信機器を使った体操や脳トレを実施しており、その場で生まれる一体感は、生活の活力となっています。



陽風園地域福祉プラザ

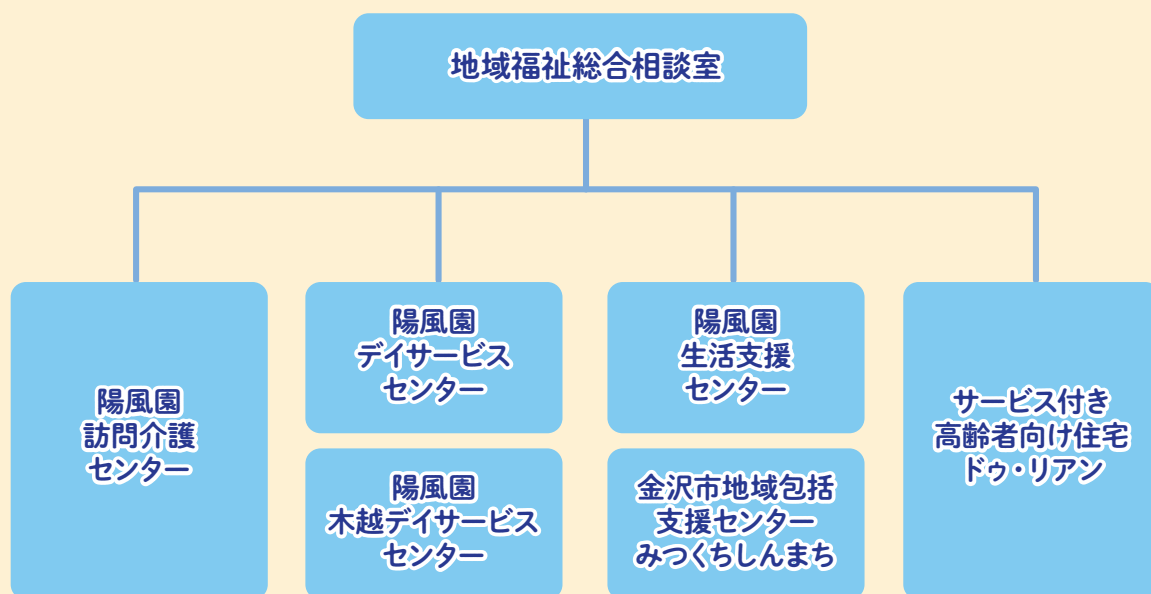
自分らしい暮らしをお手伝いします

地域ケアにおける総合機関として、利用者の方やご家族の要望に応えることができるよう、一人ひとりを大切に支援しています。

詳しくは



..... 陽風園地域福祉プラザ



地域福祉総合相談室

誰でもいつでも相談できる地域福祉の総合相談窓口です。多様な福祉サービスを提供している陽風園の利点を生かしながら、制度の種別や内容に関わりなく、あらゆるご相談に対応しています。



陽風園 訪問介護センター

「お家で暮らしたい」そんな思いを叶えるため、介護福祉士など専門資格を有している職員が、ケアプランや訪問介護計画に基づき、必要なサービスを提供しています。加えて、保険外サービスや障害サービスなど、さまざまなサービスを行っています。



陽風園 生活支援センター

利用者の心身の状況や、置かれている環境、意向などに即した保健・医療・福祉サービスを提供するとともに、地域資源を最大限に活用しながら、可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう支援しています。



金沢市地域包括支援センター みつくちしんまち

私たち福祉・医療の専門職は、地域の方々とともにより良い町づくりに取り組んでいます。ご高齢者やそ
のご家族が住み慣れた地域でいきいきと生活できる
よう支援しています。



サービス付き高齢者向け住宅 ドウ・リアン

食事や健康管理などのサービスを提供し、安全・安心な生活をサポートします。
お部屋は全て30㎡以上でゆとりのあるスペースを確保しており、ゆったりとした快適な暮らしを提供します。

詳しくは



陽風園 デイサービス センター

一人ひとりが自分らしく輝けるように

「自分らしく」「心と身体の健康」を叶えるために、
生活環境や心身の状況に応じたサービスを提供しています。



取り組み

- ▶ 転倒予防体操などや腸活
- ▶ 各種リラクゼーションとマッサージ
- ▶ 地域の子供たちとの交流や年間を通した楽しい行事

詳しくは



Pick Up

● 制作活動

制作活動は指先を使い、ものを作る楽しみや達成感を味わうことができます。和気あいあいとした中で作られた装飾により、季節が感じられるとともに、フロア内が温かく、明るい雰囲気になっています。



● 水圧マッサージ

水圧マッサージ器が設置されており、温水のジェット噴流によるマッサージが受けられます。凝りがほぐれ血行も改善。リラクゼーションにも効果抜群。利用者の皆さんにも大人気です。



陽風園 木越デイサービス センター

一人ひとりが豊かに過ごすことが 実現できる場所

「心も身体も元気」「なりたい自分になれる」「楽しく過ごす」
「ここに来て良かった」「たくさん話ができる」を叶え、
住み慣れた場所での生活を支えます。



取り組み

- ▶ 認知症予防活動
(体操、食事作り、
レクリエーション)
- ▶ 一人ひとりの希望に
沿ったサービスの提供
- ▶ 季節を感じられる行事

詳しくは



Pick Up

● 体操

体を動かしながら頭も使うオリジナルの認知症予防体操を行っています。体操メニューは毎回異なり、季節にあった歌や物を取り入れて、楽しみながら体を動かすことができます。



● 食事作り

土曜・祝日は利用者の方々と、認知症予防食材を使って昼食を作っています。家事から遠ざかっていた方が、熟練の包丁さばきで野菜を切るなど下準備もばっちり。男性利用者の方も負けてはおらず、玉ねぎの皮を剥くなど活躍されています。



救護施設 三陽ホーム

自立した社会生活をめざして!!

利用者の方の目標や希望に沿って、
それぞれの自立に向けた支援を行っています。

取り組み



- ▶ 地域における
セーフティネット
- ▶ 社会復帰を目標とした
室内作業班、実習訓練
- ▶ より地域に近い環境での
居宅生活訓練
- ▶ 日常生活にメリハリを
持たせる多彩な行事
- ▶ 地域交流、
盆花無料配布

詳しくは



Pick Up

● 実習訓練

一般就労への準備段階として、法人内他施設の車いすの清掃作業などを行っています。利用者の方の個々の自己実現に結び付くよう支援しています。



● 居宅生活訓練

近隣のアパートを利用して、より地域に近い環境で、日常生活を営む訓練や地域生活のルールを学ぶ訓練を通して地域生活への移行を支援しています。



障害者支援施設 ハビリポート若葉・若竹

自然いっぱい!笑顔いっぱい!社会に向けて旅立つ港

一人ひとりが自分らしく、生きがいを持って生活が送れるよう支援するとともに、
地域との共生をめざしています。



取り組み

- ▶ フェスタハビリ、納涼祭、希望者旅行などの年間行事
- ▶ 憩いの場となっているガーデンテラスでの活動
- ▶ 地域の行事や活動への参加
- ▶ 災害時には福祉避難所として開放

詳しくは



Pick Up

● ガーデンテラス

施設の中庭にゴムチップを敷いた歩道を整備しました。気候のよい晴れた日には日光浴や散歩を楽しむことができ、行事の日には屋台やキッチンカーが並び、皆さんがお祭りの雰囲気を満喫できる場所となっています。



● 日中の活動

平日の午前・午後は、軽作業班・農耕班・アクティビティ班に分かれて活動しています。一人ひとりが充実した日常を送れるようにさまざまな活動を支援しています。



就労継続支援B型 あけぼの作業所

あかるく けんこうで ほがらかに のびのびと

18歳以上の障害のある方が、生産活動を通して就労に必要な知識・能力や生きがいを高めることをめざしています。

取り組み



- ▶ 安心して通所できる送迎
- ▶ 栄養を考慮した食事の提供
- ▶ 自立した日常生活、社会生活を送るための支援
- ▶ 3つで構成された作業班（軽作業・焼菓子・漬物）の中での一人ひとりに合わせた支援

詳しくは



Pick Up

● 軽作業

箱折りやタオルたたみ、くずきりなどの食品のラッピングを行っています。自分たちが仕上げた商品を店頭で見かけることが、作業意欲の向上につながっています。



● 焼菓子

主力商品のクッキー、マドレーヌなどの焼菓子は福祉ショップなどで販売しています。また、郵便局でも無人販売を行っています。



● 漬物

漬物は、園内の食事に使用され、施設利用者の方々からはとても好評です。塩漬けから始まり、おいしく出来上がった梅干しやらっきょうは、郵便局での販売や個人販売を行っています。



認定こども園 みずきこども園

生きる力の基礎を育む

「生きてるってことは素晴らしい」を園の理念とし、良い環境、良い習慣、良い経験のもと、
子ども親も職員とともに育ち合える場を提供できるよう努めています。



取り組み

- ▶ “自分で考える”ことを大切に
子ども主体の保育活動
- ▶ 保護者とともに
子どもの育ちを見つめる
ゆったりと過ごす
乳児保育
- ▶ 育児の合間にほっと一息、
親育ちを支える
子育て支援教室
“ひなたぼっこ”
の実施

詳しくは



Pick Up

● 0、1、2歳児

育児休業明けの保護者が安心して仕事復帰できるよう、また、初めての集団生活に入る子どもが安心して過ごすことができるように一人ひとりの発達、成長にあった保育を心がけています。



● 3、4、5歳児

子どもたちが主体的に考えて活動する興味別活動（フリーデイ・フリータイム）と学年別に行うカリキュラムをバランスよく組み合わせることにより、子どもたちは遊びの中でさまざまな力や知恵を身に付けていきます。



陽風園診療所



診療所は、所長および金沢大学や金沢医科大学などの医師により24時間対応できる体制となっています。設備は従来の心電図、レントゲン、簡易血液検査装置に加え、新型コロナウイルスに対応したPCR検査や抗原定量検査機器を備えるなど、充実を図っています。

施設利用者の方々が健康で安心した生活が送れるよう支援するとともに、福祉施設に併設する医療機関にふさわしく、福祉の心や患者さんの尊厳を大切にしながら医療の提供に努めています。

詳しくは



事務局



主な部署として企画課・総務課・職員課・経理課があり、法人事業全体の総括・調整など、さまざまな役割を担っています。また、本園には理容室があり、専属の理容師が養護・救護施設の利用者の方々の散髪を行っています。

今後も、陽風園全体の運営が円滑に進むよう努めていきます。



給食課では、特養・養護・救護・授産の複合施設である本園の利用者約480名への食事の提供を一手に担っています。食事は利用者の方々にとって大きな楽しみの1つです。食材で四季を感じただけのような工夫を凝らすとともに、基礎疾患のある方には、病状にあわせて療養食を提供しています。

歴代理事長



初代理事長
小野 太三郎
在職：1906～1912



2代目理事長
渡瀬 政禮
在職：1912～1919



3代目理事長
飯尾 次郎三郎
在職：1919～1936



4代目理事長
横井 伊佐美
在職：1936～1947



5代目理事長
澤野 外茂次
在職：1947～1954



6代目理事長
井村 重雄
在職：1954～1972



7代目理事長
橋本 外喜男
在職：1972～1989



8代目理事長
善 道
在職：1989～1991



9代目理事長
安田 隆明
在職：1991～2008



10代目理事長
奥 清
在職：2008～2011



11代目理事長
古田 秀一
在職：2011～2018



12代目理事長
糸屋 吉廣
在職：2018～2021



13代目理事長
丸口 邦雄
在職：2021～



1873(明治6) 年		小野太三郎 金沢市木ノ新保に家屋1棟を購入し、視覚障害者24名を救養後に『小野救養所』と呼称
1879(明治12) 年		小野太三郎 金沢市彦三2番丁その他に家屋6棟を購入生活困窮者240名収容、居宅救護者150名
1885(明治18) 年	2月20日	小野太三郎 救育事業の功績により明治天皇から「藍綬褒章」を受章
1905(明治38) 年	8月1日	金沢市常盤町に新院舎竣工、移転(敷地3,100坪 建物面積500坪)『小野慈善院』と呼称
1906(明治39) 年	10月29日	財団法人の認可を受ける『財団法人小野慈善院』 小野太三郎 初代理事長(院長)に就任
1907(明治40) 年	7月8日	石川県知事 収容定員250名に変更認可



小野慈善院建築時の様子



小野慈善院見取り図

1912(明治45) 年	4月5日	小野太三郎 逝去(享年73歳)
1912(大正元) 年	10月8日	金沢市指令衛第280号をもって本院死亡者の火葬料免除の件認可
1913(大正2) 年	3月28日	院所有の山地を開いて敷地409坪、建物面積116坪の幼年部院舎の新築工事竣工 定員30名
	5月20日	北国慈恵院解散 院児13名を幼年部に収容
1916(大正5) 年	4月1日	幼年部を学校組織とし、私立臥龍尋常小学校を開校
1920(大正9) 年	9月29日	無縁塔を建設
1922(大正11) 年	9月30日	洗濯場等増築工事竣工
1926(大正15) 年	3月31日	私立臥龍尋常小学校を廃止 就学児童は金沢市内の小学校に通学する



小野太三郎葬儀の様子



小野慈善院幼年部(作業所)

1928(昭和3)年	11月30日	院内に診療室、病室など竣工
1932(昭和7)年	6月22日	救護法の実施に伴い、救護施設(救護部・養老部)の認可を受ける
1933(昭和8)年	3月25日	院舎の狭隘と設備改善のため院舎の移転拡張の認可
	4月7日	石川郡崎浦村三口新(現 三口新町)に敷地6,547坪を購入
	7月24日	院舎新築工事に着工
	12月26日	新院舎竣工 建坪1,606坪
1934(昭和9)年	3月24日	現在地(三口新町)に移転
	5月20日	本院移転改築落成式 举行
1936(昭和11)年	4月20日	幼年部に農繁期季節託児所「三口新町託児所」を併置 春秋2回各50日間 託児数35名
	9月15日	常盤町旧院から無縁塔を新院に移転
	12月31日	納骨堂、鶏舎、温室の新築工事竣工



診療室外観



診療室内部

1939(昭和14)年	6月7日	幼年部の3寮舎を6家族舎に改造 収容児も6家族に分け、1家族舎に保母1名を配置する
1942(昭和17)年	4月10日	隣接田地421坪を購入 経費1,263円
1944(昭和19)年	10月10日	石川県知事より向う1か年、戦災疎開者に対し空室貸与の件認可
1945(昭和20)年	4月10日	愛知県集団疎開者「避難民」65名を受入れ
	10月11日	愛知県の集団疎開者全員引き揚げる
1946(昭和21)年	3月12日	恩賜財団戦災援護会石川県支部長と建物10棟、延坪433坪を向う3か年間、 戦災者及び外地引揚者に対し貸借契約成立
	7月23日	石川軍政部より通訳官来院 院の経営状況の調査及び院内外の施設・設備を視察
1947(昭和22)年	7月10日	石川県知事より生活保護法による収容保護施設の認可
	10月29日	天皇陛下北陸巡行の際本院に行幸(午後4時35分御着 午後4時45分御退出)



天皇陛下下行幸

1948(昭和23)年	1月1日	児童福祉法により、幼年部は養護施設に認められる(定員110名)
	12月28日	『財団法人小野慈善院』を『財団法人小野陽風園』と改称
1949(昭和24)年	4月8日	「陽風園診療所」開設
	5月9日	運動場整備工場竣工 300坪
1950(昭和25)年	7月20日	物品倉庫1棟竣工 15坪
	9月15日	金沢市金石町河合辰五郎氏寄贈による礼法室新築工事竣工 20.5坪
	9月25日	収容寮2棟新築工事竣工 204.75坪
1951(昭和26)年	8月8日	収容寮、静養室各1棟新築工事竣工 178.25坪
1952(昭和27)年	2月16日	本園篤志理髪師 今田與三松氏 社会事業功労者として「藍綬褒章」を受章
	4月1日	「小野陽風園保育所」開設 定員50名
	5月9日	財団法人から社会福祉法人に組織変更『社会福祉法人小野陽風園』
	7月10日	農地法実施により土地478.84坪を売却



今田與三松氏



組織変更認可指令書(昭和27年5月9日、厚生省指令石社第135号)



理髪の様子

1954(昭和29) 年	4月10日	創立80周年記念式典 举行
	11月1日	生活保護法に基づく救護施設を開設
1955(昭和30) 年	12月30日	収容寮1棟44.725坪 作業場1棟15.75坪竣工
1956(昭和31) 年	3月31日	「小野陽風園保育所」廃止
	4月1日	精神薄弱児施設「あけぼの学園」開設 定員50名 養護施設児童部を「若竹学園」に改称
1957(昭和32) 年	1月10日	浴場、洗濯場、乾燥場の新築工事48.95坪、及び旧浴場、作業場等110.75坪の収容寮への改修工事竣工
	5月20日	薄井久氏寄附による収容寮1棟新築工事竣工 50坪
	7月13日	納骨堂新築工事竣工 除幕式举行
1962(昭和37) 年	3月31日	児童福祉法による養護施設「若竹学園」廃止



沿革史

1963(昭和38)年	8月1日	老人福祉法の施行により、従来の生活保護法による養老施設は老人福祉法による施設に切り替えられ、老人ホームと呼称
1964(昭和39)年	4月1日	精神薄弱者援護法に基づく精神薄弱者援護施設開設 定員92名
	5月30日	救護施設定員変更 192名→100名
1965(昭和40)年	1月1日	老人福祉法に基づく特別養護老人ホーム開設 定員100名
	1月1日	養護老人ホーム定員変更 298名→230名
	6月28日	園祖小野太三郎翁の墓を小立野の宝円寺から本園納骨堂に移設
	10月20日	郵便葉書配分金により建築中のあけぼの学園の新寮舎竣工 235.30坪
	11月1日	精神薄弱児施設「あけぼの学園」定員変更 50名→70名
1966(昭和41)年	6月1日	養護老人ホーム定員変更 230名→270名



昭和40年頃の鳥瞰図

1968(昭和43) 年	5月1日	特別養護老人ホーム定員変更 100名→120名
	6月8日	社会福祉法人小野陽風園の「概要」を発行
	6月9日	園祖小野太郎翁顕彰碑除幕式 举行
	6月9日	建物整備8か年計画事業完成落成式 举行
1969(昭和44) 年	1月21日	葬祭場及び小集会場の増改築工事竣工 37.21坪
	4月1日	『社会福祉法人小野陽風園』を『社会福祉法人陽風園』と改称
1970(昭和45) 年	3月31日	精神薄弱児施設「あけぼの学園」廃止
	7月1日	特別養護老人ホーム定員変更 120名→205名
1971(昭和46) 年		納骨堂新築



陽風園改築8か年計画事業落成式

1973(昭和48)年	4月1日	精神薄弱者援護施設定員変更 92名→120名
	6月1日	特別養護老人ホーム定員変更 205名→250名
	6月1日	精神薄弱者援護施設定員変更 120名→170名
	12月1日	在宅老人機能回復訓練開始(特別養護老人ホーム)
1974(昭和49)年	4月1日	特別養護老人ホーム定員変更 250名→300名
	4月1日	養護老人ホーム定員変更 270名→240名
	9月25日	常陸宮殿下御夫妻御視察
	11月15日	創立100周年記念式典 挙行
1975(昭和50)年	4月1日	特別養護老人ホーム定員変更 300名→330名
1976(昭和51)年	4月1日	特別養護老人ホーム定員変更 330名→364名
1979(昭和54)年	4月1日	精神薄弱者援護施設定員変更 170名→190名
	10月1日	「園内だより」第1号発刊 万陽苑に御下賜金が下賜される



常陸宮殿下御夫妻御視察



創立100周年記念式典

1980(昭和55)年	2月1日	特別養護老人ホーム定員変更 364名→370名
1982(昭和57)年	4月14日	施設の固有名称を定める 養護老人ホーム「向陽苑」、特別養護老人ホーム「万陽苑」、救護施設「三陽ホーム」、精神薄弱者援護施設「若葉ホーム」
1984(昭和59)年	3月30日 4月1日	大桑町にて特別養護老人ホーム建設用地を取得 22,645㎡ 万陽苑、在宅入浴サービスを開始
1985(昭和60)年	7月1日 7月1日	大桑町にて特別養護老人ホーム「第二万陽苑」開設 定員150名 特別養護老人ホーム万陽苑定員変更 370名→320名
1988(昭和63)年	10月1日	「園章」の制定 向陽苑に御下賜金が下賜される
1991(平成3)年	4月1日 10月25日 11月1日 11月1日 12月20日	若葉ホームで心身障害者巡回療育相談等事業、精神薄弱者社会自立モデル事業を開始 三小牛町にて特別養護老人ホーム建設用地を取得 9,900㎡ 万陽苑、第二万陽苑にて老人短期入所促進事業を開始 「陽風園だより」第1号発刊 三小牛町にて特別養護老人ホーム建設用地を取得 4,519㎡



第二万陽苑竣工式

年表 150年のあゆみ

1992(平成4)年	1月1日	万陽苑、第二万陽苑にて介護ヘルパー設置促進事業を開始
1993(平成5)年	5月5日	「私たちの信条」制定
	6月24日	精神薄弱者更生施設「若葉ホーム」に名称変更
	6月30日	別所町にて精神薄弱者更生施設移転用地を取得 43,606㎡
	7月1日	三小牛町にて特別養護老人ホーム「第三万陽苑」開設 定員150名、ショートステイ20名
	7月1日	特別養護老人ホーム万陽苑定員変更 320名→190名
	8月1日	「第三万陽苑デイサービスセンター」開設
1994(平成6)年	4月1日	精神薄弱者地域生活援助事業 グループホーム「スターツもみじ」開設
1995(平成7)年	7月7日	戦後50年記念事業 タイムカプセル埋設式 举行
	11月1日	精神薄弱者更生施設「若葉ホーム」を別所町に移転開所し、「ハビリポート 若葉」と改称 定員210名、短期入所4名



第三万陽苑竣工式

1996(平成8) 年	4月1日	精神薄弱者授産施設「あけぼの作業所」開設 定員30名
	4月1日	「万陽苑デイサービスセンター」開設
	4月1日	「陽風園お年寄り介護相談センター」開設
	4月1日	精神薄弱者地域生活援助事業 グループホーム「スターツあおば」開設
	9月18日	天皇皇后両陛下石川県行幸啓(第16回全国豊かな海づくり大会)の際、ハビリポート若葉を御視察(午後1時30分御着、午後2時30分御退出)
1997(平成9) 年	4月8日	「金沢三口新町簡易郵便局」開設
1998(平成10) 年	3月31日	向陽苑、万陽苑にて老朽化した一部建物の大規模改修工事を施行
	4月1日	あけぼの作業所定員変更 30名→37名
	10月8日	三陽ホーム大規模修繕等及び拡張事業
	10月10日	創立125周年記念式典 挙行



天皇皇后両陛下下行幸啓

年表 150年のあゆみ

1999(平成11)年	3月1日	陽風園お年寄り介護相談センターの名称を「金沢お年寄り介護相談センター陽風園」に変更
	3月1日	「金沢お年寄り介護相談センター第三万陽苑」開設
	6月3日	崎浦地区町会連合会と災害時相互応援協定を締結
	9月27日	指定居宅介護支援事業者として、「陽風園生活支援センター」「第二万陽苑生活支援センター」「第三万陽苑生活支援センター」開設
	10月1日	知的障害者地域生活援助事業 グループホーム「さくら」開設
2000(平成12)年	1月1日	万陽苑開設35周年を記念して、記念特別献立、記念講演、記念誌の発行
	2月10日	万陽苑ちぐさ寮の一部個室化工事を施行
	3月24日	第二万陽苑の一部個室化、食堂及び機能回復訓練室の拡張、ショートステイ専用個室10室等増改築工事を施行
	4月1日	介護保険制度下での各施設サービスを開始



崎浦地区町会連合会災害時相互応援協定調印式



金沢お年寄り介護相談センター運営懇談会及び委員委嘱状授与式

2002(平成14)年	5月1日	「陽風園金沢南生活支援センター」開設
2003(平成15)年	4月1日	万陽苑訪問介護センターにて身体障害者居宅介護等事業を開始
	4月1日	あけぼの作業所定員変更 37名→40名
	6月30日	創立130周年記念式典 挙行
2004(平成16)年	8月23日	木越町にて通所介護事業用地を取得 1,613㎡
2005(平成17)年	1月31日	万陽苑訪問介護センターにおける身体障害者居宅介護等事業を廃止
	4月1日	金沢市みずき4丁目1番にて「みずき保育園」開園
	4月1日	金沢市木越町チ60番地1にて「陽風園木越デイサービスセンター(単独型)定員30名・陽風園木越生活支援センター」開設



創立130周年記念式典

2006(平成18)年	3月31日	万陽苑訪問入浴サービス事業を廃止
	3月31日	金沢市の制度変更により金沢お年寄り介護相談センター陽風園及び金沢お年寄り介護相談センター第三万陽苑を廃止
	4月1日	地域包括支援センター「お年寄り地域福祉支援センターみつくちしんまち」及び「お年寄り地域福祉支援センター第三万陽苑窓口」開設
	10月1日	向陽苑にて外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業を開始
	10月1日	「向陽苑訪問介護センター」開設
	10月1日	ハビリポート若葉共同生活援助サービス事業を開始(グループホーム3事業を1本化)
2008(平成20)年	3月31日	陽風園金沢南生活支援センターを廃止
	4月1日	陽風園木越デイサービスセンター定員変更 30名→20名
	11月8日	内川地区校下町会連合会と災害時相互応援協定を締結



内川地区校下町会連合会災害時相互応援協定調印式



交通安全宣言大会



みずきクリスマス会

2010(平成22)年	4月1日	在宅部門を強化するため在宅事業推進局を設置
	4月1日	陽風園生活支援センター所在地を陽風園敷地内に変更(3番25号から8番1号)
	4月1日	第二万陽苑生活支援センター及び第三万陽苑生活支援センターの居宅介護支援事業を廃止し、陽風園生活支援センターに機能を集約
	4月1日	陽風園整備計画策定 第1期 H22年度～H25年度 第2期 H26年度～H28年度
	9月17日	向陽苑分割のため桂町にて土地取得 3,563㎡
2011(平成23)年	4月1日	陽風園診療所を無床化する
	10月1日	障害者自立支援法に基づき、新体系へ移行し就労継続支援B型あけぼの作業所とする。定員変更なし
	10月31日	ハビリポート若葉増築 38.08㎡
	12月1日	障害者自立支援法に基づき、新体系へ移行しハビリポート若葉を同一敷地で2分割する 障害者支援施設ハビリポート若葉 定員164名 短期4名 障害者支援施設ハビリポート若竹 定員 36名 短期空床型



消防技術競技大会



災害派遣職員激励会



職員親交会忘年会

2012(平成24) 年	4月1日	養護老人ホーム「向陽苑木曳野」(定員120名)開設 向陽苑崎浦の定員を120名とし、「向陽苑木曳野訪問介護センター」「陽風園木曳野生活支援センター」開設
	4月1日	陽風園木越デイサービスセンター定員変更 20名→25名 土曜日、祝祭日営業開始
	4月1日	第三万陽苑デイサービスセンター 祝祭日の営業開始
	4月1日	万陽苑デイサービスセンター 土曜日、祝祭日の営業開始
	4月1日	お年寄り地域福祉支援センターみつくちしんまちから「金沢市地域包括支援センターみつくちしんまち」に名称変更
	4月5日	園祖小野太三郎翁百回忌法要並びに物故歴代理事長及び利用者追悼法要 挙行 (陽風園本園改築整備事業、園祖暫定墓地整備、園花である白梅の記念植樹、法要、小野太三郎翁肖像画制作)
2013(平成25) 年	4月1日	向陽苑崎浦(定員120名)改築
	4月1日	陽風園経営基本計画2013(5か年中期計画)策定
	4月1日	在宅事業推進局を「陽風園地域福祉プラザ」と改称し、地域福祉総合相談事業を開始



園祖暫定墓地整備、園花白梅の記念植樹



園祖小野太三郎翁百回忌法要



山崎宇宙飛行士来園

	4月1日	訪問介護事業（万陽苑と第二万陽苑）を統合し、「陽風園訪問介護センター」とする
	4月1日	デイサービスセンター（万陽苑と第三万陽苑）を統合し、「陽風園デイサービスセンター」とする
	4月1日	居宅介護支援事業を統合し、「陽風園生活支援センター」と「陽風園木越生活支援センター」とする
	6月10日	陽風園訪問介護センターにおいて金沢市から移動支援事業の指定を受け事業開始
	10月1日	ハビリポート若葉において特定相談支援事業の指定を受け、「障害者相談支援センターわかば」開設
	12月20日	天皇陛下より第二万陽苑に御下賜金
2014(平成26) 年	3月27日	管理棟（含む三陽ホーム拡張、診療所改築）竣工
	5月24日	創立140周年記念式典 挙行
	6月1日	金沢市涌波にて「サービス付き高齢者向け住宅ドウ・リアン」(15室) 開設



新旧管理棟



創立140周年記念事業
ギャラリーあゆみお披露目

年表 150年のあゆみ

2015(平成27)年	3月31日	金沢三口新町簡易郵便局 廃止
	4月1日	本園改築のため特別養護老人ホーム万陽苑(定員190名)のうち60名分を、ユニット型特別養護老人ホーム「万陽苑清風館」として改築運用開始
2016(平成28)年	4月1日	みずき保育園定員変更 160名→168名(低年齢児保育室拡張に伴う定員変更)
	4月1日	グループホームスタートもみじを「もみじ」に改称
	4月1日	グループホームスタートあおば(定員4名)を金沢市涌波3丁目に新築移転し、「あおば」(定員7名)に改称
	4月1日	陽風園木越生活支援センターを陽風園生活支援センターに統合
	10月1日	従来型特別養護老人ホーム「万陽苑明悠館」(入所定員130名、短期入所20名)の改築移転
2017(平成29)年	1月1日	「地域福祉プラザ棟(地域福祉総合相談室、陽風園訪問介護センター、陽風園デイサービスセンター、陽風園生活支援センター、金沢市地域包括支援センターみつくちしんまち)」の改築移転
	4月1日	「みずき保育園」から保育所型認定こども園「みずきこども園」に移行
	10月14日	陽風園本園改築整備事業竣工記念式典 挙行



万陽苑明悠館他地鎮祭



万陽苑設立50周年



本園改築整備事業
モニュメント除幕式

2018(平成30) 年	4月1日	陽風園経営基本計画2018(5か年中期計画) 策定
	4月1日	陽風園デイサービスセンター定員変更 30名→32名
	4月1日	第二万陽苑にて福祉施設情報統合システムを設置・運用開始
	4月10日	グループホームもみじ移転新築工事完了
2020(令和2) 年	8月1日	陽風園木越デイサービスセンター定員変更 25名→28名
2021(令和3) 年	3月19日	みずきこども園分園建設のための土地取得(3筆 合計773.43㎡)
	4月1日	陽風園木越デイサービスセンター定員変更 28名→30名
2022(令和4) 年	3月4日	みずきこども園分園工事着工
	4月1日	三陽ホーム定員変更 100名→90名
	11月24日	みずきこども園分園おひさまとかぜ新築工事竣工修祓式
2023(令和5) 年	4月1日	「みずきこども園分園おひさまとかぜ」開園



陽風園デイサービスセンター「ながら見守り」等防犯活動依頼書交付



福祉のお仕事親子体験ツアー



感染症対策研修会

施設整備計画

陽風園本園第一期改築整備事業(平成23年度～平成29年度)

第一期改築整備事業は平成23年の養護老人ホーム向陽苑木曳野移転新築より始まり、平成29年の本園外構工事によって完成しました。

平成23年度	養護老人ホーム向陽苑木曳野移転新築
平成24年度	養護老人ホーム向陽苑崎浦改築
平成25年度	陽風園管理棟第一期改築
平成26年度	特別養護老人ホーム万陽苑清風館改築
平成27年度	特別養護老人ホーム万陽苑明悠館改築、陽風園管理棟第二期改築、
～28年度	陽風園地域福祉プラザ棟新築
平成29年度	本園外構工事



陽風園本園第二期改築整備事業(令和3年度～令和9年度)

第一期事業が平成29年度に完了したのを受けて、陽風園創立150周年を機に、第二期事業となるあけぼの作業所と三陽ホームの改築に着手することとし、準備を進めています。

あけぼの作業所

- ・ 同一敷地内の万陽苑明悠館横に移転改築予定
- ・ 地域交流の場として「あけぼのカフェ」を整備するとともに、販売スペースを拡充し、製品の販売を促進

三陽ホーム

- ・ あけぼの作業所を移転後、跡地に移転改築予定
- ・ 救護施設に求められる福祉ニーズの変化と社会の実情を踏まえた施設運営を実現

完成イメージ図



みずきこども園分園

「おひさまとかぜ」(令和5年4月開園!)

目的 0、1歳児で入園を希望する世帯の増加に伴い、地域のニーズに適確に対応するため、分園を整備

場所 現みずきこども園向かい側
金沢市みずき4丁目66番地、67番地

定員 0歳児10名

構造 木造平家建

分園完成写真





陽風園創立150周年記念事業として行った動画撮影の様子

編集後記

創立150周年という大きな節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊できることを大変うれしく思います。

作成にあたっては、「見やすく、読みやすく、わかりやすいものを」という思いから、横書きとし、文字の書体や紙面構成にも工夫を凝らしました。また、陽風園が今日まで築き上げてきた150年という長い歴史の重みを感じつつ、これからの未来に思いをはせながら、編集作業に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、写真撮影のスケジュール調整等に苦労があったものの、プロジェクトメンバーをはじめ、各関係機関の皆様のおかげで無事に完成させることができました。当記念誌の編集にあたり、大変お忙しい中原稿を寄せていただいた皆様方や、写真撮影や文章の編集など、ご協力いただいた全ての皆様方に心から感謝いたします。

陽風園は、これからも「時代とともに、地域とともに」をモットーに、歩みを続けていきます。

創立150周年記念事業推進プロジェクトメンバー一同

創立150周年記念事業 推進プロジェクト

※プロジェクト在籍時の所属を記載しています。

リーダー

松倉 剛弘(事務局長)

サブリーダー

中森 隆則(事務局次長)

メンバー

横山 智枝(向陽苑崎浦)

川畑 翔史(向陽苑木曳野)

大平 太一郎(万陽苑明悠館)

有馬 由香(万陽苑清風館)

東 光一郎(第二万陽苑)

椎名 拓(第三万陽苑)

谷内 和子(地域福祉プラザ)

宮下 睦美(地域福祉プラザ)

宮本 佳代(三陽ホーム)

小川 孝司(ハビリポート若葉・若竹)

竹中 祐太郎(ハビリポート若葉・若竹)

正前 美奈子(あけぼの作業所)

石田 有香(みずきこども園)

山口 敬士朗(企画課)

北川 亮(企画課)

村井 光治(総務課)

三津守 幸子(総務課)

和田 祐樹(総務課)

早川 里美(給食課)

社会福祉法人陽風園 創立150周年記念誌

令和5年3月24日発行

編集 創立150周年記念事業推進プロジェクト

発行 社会福祉法人陽風園

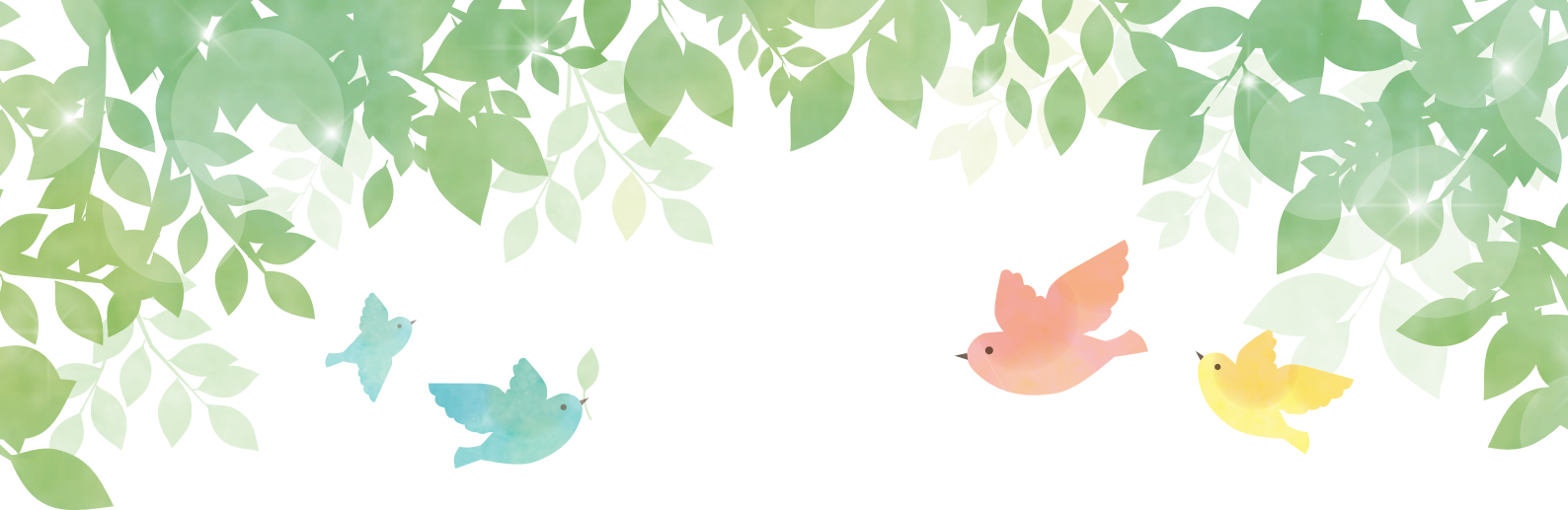
〒920-0944

石川県金沢市三口新町1丁目8番1号

電話076-263-7101

制作 能登印刷出版部

印刷 能登印刷株式会社



社会福祉法人

陽風園